

5.診療活動

三越厚生事業団は公益財団法人の認可を受け公益財団法人三越厚生事業団となり、健診事業はもとより外来診療も一般の方々を対象とした公益事業として活動している。

三越診療所は新宿駅西口から徒歩5分という交通の便のきわめてよい場所に位置し、雨天の場合には地下道を利用することにより濡れずにご来所いただける。

当診療所には外来診療部門と健診部門があり、外来診療部門では通常の外来保険診療とともに、入社健診、健診の2次検査あるいは精密検査も受けられ、多くの方々にご利用いただいている。ワクチン接種については、自費診療でインフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、水痘（带状疱疹）、おたふくかぜ、B型肝炎、破傷風の各ワクチンの接種を実施している。受診者は一般企業の勤務者、新宿地区にお住まいの方、都内ならびに都外の遠方から来られる方など様々である。

診療内容については、一般内科以外に、脂質代謝、糖尿病、消化器、循環器、神経内科の各内科専門医、ならびに乳腺外科の専門医がいる。乳腺外科は原則的に予約制であるが、当日受診も可能である。

検査としては、一般血液、尿検査以外に、単純X線検査、心電図検査、胸部X線、肺機能検査、眼底検査、ホルターならびに負荷心電図検査、24時間血圧測定検査、血管機能検査、胃透視検査、胃ならびに大腸内視鏡検査、ピロリ菌検査、デジタルマンモグラフィ、心臓・腹部・乳腺・甲状腺超音波検査、骨密度検査が受けられる。無呼吸症候群の診断確定のため、検査機器を自宅に送付し、結果を外来でお知らせすることも実施されている。さらに、令和2年1月から健診オプションとして腹部CTを用いた内臓脂肪測定検査（保険適応なし）が可能となった。胃透視機器については平成29年高精度の新機器が導入され、診断能の向上が期待される。内視鏡検査にはがんの早期発見の手助けとなるNBI（狭帯域光観察）内視鏡システムが導入されている。胃内視鏡検査には胃内視鏡検査は今年度から径が非常に細いオリンパス製電子スコープ GIF-1200Nとマウスピースカパーのついたマウスピースをしているのでこれまでより楽に検査を受けられる。

マンモグラフィについても1昨年の7月最新鋭のデジタル機器が導入され、これまでより少量のX線量で質の高い画像が得られ、検査時間の短縮と診断能の向上が期待される。CT検査（単純ならびに造影CT検査）は高性能の新機種が設置され、頭頸部・胸部・腹部の精密検査として施行される。なお、単純CT検査は平日予約なしでご利用いただける。また、血管機能検査（動脈の硬さの指標であるCAVI測定など）と頸動脈超音波検査による血管の動脈硬化度の測定、ならびに内臓脂肪測定は、社会的に注目されているメタボリックシンドロームに伴う動脈硬化に起因する心臓ならびに脳血管障害の予測に有用である。画像検査の結果はすべてデジタル化しており、受診者に画像を見ながらわかりやすく説明している。これらの機器を取り扱う医師ならびに検査技師は、受診者への心配りはもとより、安全かつ正確で迅速な検査を心掛けており、機器や試薬についても新しい情報をもとに常に改善を図っている。

外来受診者の病気については、感冒、腹痛、胸痛、頭痛、動悸などの急性の病気から、高血圧、高脂血症、糖尿病、痛風、脂肪肝などの生活習慣病、慢性肝障害と胃腸病、不整脈、動脈硬化に伴う心臓病と脳血管障害などの慢性の病気まで、専門の知識を持ち、経験豊富な医師（認定医および専門医）が診察にあたっている。受診者のなかには、当事業団の三越総合健診センターで健康診断を受け、2次検査となった人、あるいは区健診の2次検査の人も多くみられる。また、当診療所は、区健診の2次検査としての胃内視鏡検査・大腸内視鏡検査の指定診療機関となっているので、多くの方が1次健診に引き続き当診療所でこれらの精密検査を受けている。なお、平成30年から区健診の一次検査で希望者に胃内視鏡検査が実施されている。

外来は午前9時～午後1時、午後2時～午後5時まで診療し、午後1～2時は昼休みである。個人情報保護法の趣旨に従い、外来では名前の代わりに番号での呼び出しを行っている。当診療所は院外処方採

用しているが、専属の常勤薬剤師が処方された薬剤についての説明をしており、電話による薬の問い合わせについても、常勤医師あるいは薬剤師がいつでも対応できる体制にある。なお、令和2年度から施行された、新型コロナウイルス感染症の流行にともない外出を控えている受診者への電話再診（自覚的に安定している慢性疾患受診者について定期処方箋の自宅への郵送を実施していたので、来院は不要であった）は1昨年の7月で終了した。

紹介患者様については、病診連携の項をご参照ください。

栄養相談は、高脂血症、糖尿病、肥満などを対象に主治医の指導のもとに週1回管理栄養士が対談形式で行っている。

当診療所は来所された受診者が納得し、満足のいく医療を受けられるよう、医師、看護師・保健師、検査技師、外来受付事務担当者、ならびに健診センター職員が相互に緊密な連携をとり、最良の医療となるよう心掛けている。その一環として、学会、研究会、講習会への出席、レントゲンカンファレンス、定期的に行われる医療研修会、薬事委員会、全職員が参加する研究活動を通して、最新の医療情報や技術を常に入手している。そのなかで有用なものはインフォームドコンセントを得たうえで受診者のために活用している。

受診者が病気の説明、待ち時間を含め、満足する医療を受けられるよう、当診療所の**全職員が良質の接遇を心掛けている**。

三越診療所（外来と健診センター）の詳細についてはホームページを参照いただきたい。

（船津和夫 記）

A. 上部消化管内視鏡検査

上部消化管内視鏡は径が非常に細いオリンパス製電子スコープGIF-I200Nを2本使用し、受診者の負担の軽減に役だっている。さらに、内視鏡挿入時の咽頭の不快感を軽減するため、咽頭麻酔剤の使用とともに、サイレースを静注し（年齢・体重により投与量を調整）、軽眠状態で行っているため、楽に検査を受けられる。なお、お年寄りの方や前回麻酔が効きすぎた方あるいは一部の企業検診や区検診では、麻酔なしで検査する場合がある。今年度からマウスピースカバーのついたマウスピースを使用し、比較的楽に検査を受けられる。また、数年前に内視鏡周辺機器が一新され、これまでより鮮明な画像が見られるようになった。特に、NBI（狭帯域光観察）内視鏡システムは食道・胃・大腸内の様子を明確に画像表示し、がんの早期発見の手助けとなっている。

内視鏡の消毒には、内視鏡学会の基準に則した強酸性電解質による殺菌を毎回行っている。内視鏡検査で慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍の所見がみられた場合には、内視鏡によるピロリ菌検査が実施されることがある。

令和7年度の施行件数は、男性389例、女性436例、計825例で、令和4年度667例、令和5年度698例、令和6年度729例より男女とも多かった（表1）。経年推移をみると、平成29年度から令和元年度は1000例前後が続いたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け令和2年を中心に例数は減少した。令和3年から検査件数は改善しつつある。男女比では、女性が男性より多かった。男女比の推移については、平成20年までは男性が女性より多かったのに対し、その後は女性が男性より多い。

表1 胃内視鏡検査月別人数

（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	22	43	52	34	34	27	50	36	31	29	13	18	389
女性	23	28	35	31	33	30	70	56	45	38	25	22	436
計	45	71	87	65	67	57	120	92	76	67	38	40	825

症例の内訳は、健診で胃内視鏡検査を受けた人は564例（男性272例、女性292例）（表2）で、令和4年度の371例（男性167例、女性204例）、令和5年度442例、令和6年度494例（男性234例、女性260例）に比べ多かった。健診以外の胃内視鏡検査受診者は257例（男性117例、女性140例）で、令和4年度296例（男性138例、女性158例）、令和5年度256例（男性122例、女性134例）、令和6年度235例（男性117例、女性118例）とほぼ同数であった。その内訳をみると、2次検診として36例（男性14例、女性22例）で、令和4年度の18例（男性12例、女6例）、令和5年度23例（男性13例、女性10例）、令和6年度29例（男性16例、女性13例）より多かった。一方、他所からの紹介を含めた外来受診者における胃内視鏡検査件数は221例（男性103例、女性118例）で、令和4年度の278例（男性126例、女性152例）令和5年度233例（男性109例、女性124例）より少なかったが、令和6年度206例（男性101例、女性105例）より多かった。

外来からの胃内視鏡検査数は平成25年から胃内視鏡検査を受けたピロリ菌保菌者の除菌治療が保険適応になったため増加傾向にあったが、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の流行のため減少し、そのまま減少傾向は続いている。

表2 胃内視鏡検査受診者の内訳

(人)

	健診	健診より2次	外来	他所より	計
男性	272	14	100	3	389
女性	292	22	116	2	436
計	564	36	216	5	825

胃内視鏡検査所見（表3）としては、例年どおり食道は食道ヘルニアと逆流性食道炎が多くみられた。胃については、良性ポリープ、慢性胃炎、表層性胃炎、びらんがよくみられ、胃潰瘍は9例とやや多かった（令和4年度と5年度は共に2例、令和6年は7例）。十二指腸については、例年通り炎症、ポリープ、潰瘍瘢痕とびらんが多くみられ、潰瘍は1例であった（令和4年度4例、令和5年度と令和6年度は共に0例）。所見なしは40例であった。

表3 胃内視鏡検査所見

(人)

食道	食道がん	0	胃	胃がん	1	十二指腸	十二指腸がん	0
	食道乳頭腫	0		表層性胃炎	149		びらん	11
	粘膜下腫瘍	3		慢性胃炎	278		潰瘍	1
	白斑	4		胃潰瘍	9		潰瘍瘢痕	11
	逆流性食道炎	245		腺腫	0		ポリープ	19
	ヘルニア	312		良性ポリープ	356		憩室	4
	憩室	7		びらん	128		粘膜下腫瘍	6
	潰瘍瘢痕	3		潰瘍瘢痕	17		炎症	42
	カンジダ症	11		粘膜下腫瘍	40		所見なし	40
	バレット食道	58		憩室	2			
	ポリープ	5		残胃胃炎	5			
	びらん	0						

ヘリコバクター・ピロリ菌検査は内視鏡施行時、**ピロリテックテスト**が実施され、検査数は12例（男性7例、女性5例）であった（表4）。件数の推移については、平成23年度75例、平成24年度58例に比べ、平成25年度から平成28年度にかけては150～270例とこの4年間は比較的多かった。一方、平成29年度から令和3年度は20～40例、令和4年度11例、令和5年度15例、令和6年度10例と減少傾向が続いている。この減少傾向は新型コロナウイルス感染症の流行に伴う胃内視鏡検査数の減少とこれまですでにピロリテックテストを受けた方が多いことに一因があると思われる。平成25年からの増加は後述するように胃内視鏡検査受検者でピロリ菌の除菌治療が保険適応となったためである。その後の減少は、内視鏡検査で新たに見つかる胃炎患者の減少も関与していると考えられる。

今年度のピロリ菌検査陽性率は91.7%（男性85.7%、女性100%）であった。陽性率は令和3年度56.5%、令和4年度72.7%、令和5年度53.3%であった。令和2年度以降は症例数が少ないため、参考値と考えたい。

平成24年度までは、ピロリ菌除菌治療の保険適応は胃・十二指腸潰瘍、早期胃がんの内視鏡治療後、悪性リンパ腫の一つである胃MALTリンパ腫、血液の難病の特発性血小板減少性紫斑病に限定されていた。ピロリ菌感染は胃癌の原因であり、その予防のために、平成25年度から胃内視鏡検査を受け、胃炎がある場合にピロリ菌検査と除菌治療が保険適応となったことから、胃内視鏡検査とそれに続くピロリ菌検査数は一時増加した。ピロリ菌陽性者のほとんどが当診療所で、抗生剤2種類と胃薬を1週間内服するピロリ菌の除菌療法（1次除菌療法あるいは2次除菌療法）を受け、ほとんどの人で除菌は成功している。

表4 ピロリ菌検査人数と陽性者数 (人)

	男性	女性	計
検査数	7	5	12
陽性者	6	5	11
陽性率 (%)	85.7%	100%	91.7%

胃内視鏡検査で発見された胃がん症例の1例を示す(表5)。依頼元は区健診であった。大学病院でロボット支援幽門側胃切除術が施行された。

表5 胃内視鏡で発見された胃がん症例

性別	年齢	診断名	進行度	部位	依頼元	依頼先	術式
男性	87	低分化型腺癌	進行	胃角部前壁	区健診	慶應義塾大学病院	ロボット支援幽門側胃切除術

B. 下部消化管内視鏡検査

大腸疾患の検査については、注腸検査（肛門からバリウムを大腸に注入し、レントゲンを使って大腸粘膜の変化を観察する）は近年激減し、要精査になった場合大腸内視鏡検査が必要なことから現在行われていない。大腸内視鏡検査は柔軟性に富み受診者に優しい最新型のPCF-H290Iを2本使用している。前処置として、腸管内の便を完全に排出するため、前日就寝前下剤のラキソベロン内用液1本とコップ約2杯の水分を摂取し、検査当日朝ニフレック2リットルを約2時間かけて服用する。午後から検査が行われ、前投薬として、麻酔薬を注射する。

大腸内視鏡検査件数は128例（男性72例、女性56例）であった。件数の推移については、令和1年度150例、令和2年度94例、令和3年度128例（男性69例、女性59例）、令和4年度102例（男性57例、女性45例）、令和5年度122例（男性73例、女性49例）、令和6年度73例（男性45例、女性28例）であり、前年度より増加していた(表6)。

表6 大腸内視鏡検査月別人数 (人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
男性	4	5	9	5	7	9	6	4	6	5	7	5	72
女性	6	7	3	8	4	2	7	4	2	5	4	4	56
総数	10	12	12	13	11	11	13	8	8	10	11	9	128

その内訳は、外来における検便潜血陽性および1年に1回の大腸内視鏡検査フォローを含む内視鏡検査50例（令和4年度39例、令和5年度32例、令和6年度28例）、一般健診の便潜血反応陽性から72例（令和4年度54例、令和5年度80例、令和6年度40例）、区健診の便潜血反応陽性から5例（令和4年度5例、令和5年度4例、令和6年度4例）、他所からの大腸内視鏡検査依頼1例（令和4年度4例、令和5年度6例、令和6年度1例）であった（表7）。一般健診便潜血反応陽性による精密検査での大腸内視鏡検査が前年同様多い傾向がみられた。

表7 大腸内視鏡検査受診者の内訳 (人)

外来より	50
一般健診で便潜血検査陽性	72
区健診で便潜血検査陽性	5
他所より紹介	1

内視鏡所見としては、21例が無所見（令和4年度27例、令和5年度18例、令和6年度13例）で、有所見としては、腺腫59例（令和4年度24例、令和5年度45例、令和6年度23例）、憩室54例（令和4年度34例、令和5年度31例、令和6年度23例）が多く、次いで良性ポリープ13例（令和4年度16例、令和5年度25例、令和6年度11例）、痔7例（令和4年度22例、令和5年度47例、令和6年度23例）であった。なお、潰瘍性大腸炎5例（令和4年度3例、令和5年度5例、令和6年度2例）、大腸悪性腫瘍5例（令和4年度2例、令和5年度2例、令和6年度2例）がみられた（表8）。悪性腫瘍症例数の経年変化をみると、令和1年度6例、令和2年度7例、令和3年度4例に比べ令和4年度からは2例とやや少なかったが、今年度は5例であった。

表8 大腸内視鏡検査所見 (人)

がん	腺腫	良性ポリープ	痔	憩室	大腸炎	潰瘍性大腸炎	クローン病	直腸炎	平滑筋腫	びらん	カルチノイド	所見なし	その他
5	59	13	7	54	1	5	0	0	0	0	0	21	13

大腸内視鏡検査で発見された大腸悪性腫瘍5例の一覧を示す（表9）。男性3名、女性2例で、依頼元は当健診センターの便潜血反応陽性からが3名、外来からが2名であった。部位的には直腸がん2例、S状結腸・横行結腸・盲腸がんが各1例づつであった。早期癌は直腸がんのみであった。治療については、近くの病院を紹介し、進行がんは腹腔鏡下手術あるいはロボット支援手術、早期癌については内視鏡的粘膜切除術が施行された。

表9 大腸内視鏡で発見された大腸がん症例

性別	年齢	部位	進行度	術式（紹介）	依頼元	依頼先
男性	54	S状結腸	進行	腹腔鏡下S状結腸切除術	健診	NTT東日本関東病院
男性	69	横行結腸	進行	ロボット支援下結腸左半切除術	外来	国立国際医療センター
男性	76	直腸	進行	ロボット支援下直腸低位前方切除	健診	JR東京総合病院
女性	83	盲腸	進行	ロボット支援下回盲部切除術	外来	慶應義塾大学病院
女性	72	直腸	早期	内視鏡的直腸粘膜切除術	健診	多摩北部医療センター

（船津和夫 記）

C. 腹部超音波検査・CT検査など

腹部超音波検査は第1, 第3木曜日と第2, 第4金曜日の午前中に専門医により施行されている。この検査は、空腹状態で施行され、放射線被曝なしに簡便に受けられる画像診断として広く汎用されており、臨床診断上とても有用である。検査の対象者は、診療所の外来受診者と生活習慣病健診の2次検査として腹部超音波検査を指示された人である。病気としては、肝および腎のう胞、脂肪肝、肝血管腫、胆のうポリープ、胆石と肝内結石、腎結石、前立腺肥大などが多く、超音波検査のみで確定診断できる。肝腫瘍については、超音波検査時のカラードップラー法による血流測定や造影CT検査により肝血管腫などの良性の病気と肝臓がんとの鑑別を行っている。また、慢性肝炎、肝硬変という肝臓がんが生じやすい患者様のフォローアップについては1年に複数回施行する造影CT検査と併用される。超音波検査の精密検査としてCT検査が必要な病気としては、肝腫瘍、胆管拡張、腎腫瘍、腎盂拡張、胆のう壁肥厚、脾のう胞、脾管拡張、膀胱腫瘍、甲状腺腫、腹部リンパ節腫脹がある。これらは悪性腫瘍が存在する可能性があり、精査もしくは経過を追って繰り返し再検査が必要である。

腹部超音波検査の所見の判定には、検査を施行する術者の主観が入ることがあるので、病変の正確な診断には術者の経験と検査手技が重要である。

当診療所では、超音波検査の専門医が施行しており、精密検査として造影CT検査も受けられるので、受診者は安心して検査を受けることができる。また、外来に来院された症状のある患者にとって、食事をしていても即時の検査対応が可能であり、早期診断の一助となる。

性別各月ごとの施行件数を表10に示す。腹部超音波検査の検査総数は男性81例、女性81例(計162例)であった(表10a)。経年推移をみると、令和1年度222例、令和2年度175例、令和3年度172例、令和4年度141例、令和5年度134例、令和6年度149例と、新型コロナウイルス感染症の影響で令和4～6年は例数が少なかったが、今年度は161例で件数の回復傾向が見られた。

頸動脈超音波検査は近年注目されているメタボリックシンドロームに伴う心臓や脳の血管の硬さを反映する頸動脈の硬化度をみるもので、全身の動脈硬化進行度の指標になる。また、プラークと呼ばれる破裂すると脳卒中を引き起こす頸動脈の限局的な動脈硬化巣の発見にも有用である。

頸動脈超音波検査は44例(男性26例、女性18例)であった(表10b)。頸動脈超音波検査数の推移は平成29年度から令和1年度にかけては例年100例前後であったが、令和2年度68例、令和3年度73例、令和4年度45例、令和5年度42例、令和6年度37例と新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した検査数が見られ回復していない。

甲状腺超音波検査は15例(男性4例、女性11例)施行された(表10c)。甲状腺超音波検査数については例年15～30例くらいである。甲状腺エコーは女性の受診者が男性に比べ圧倒的に多く、これは男性より女性に甲状腺の病気が多いためである。

表10 超音波検査月別人数 (人)

		a 腹部超音波検査			b 頸動脈超音波検査			c 甲状腺超音波検査		
月	総数	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
4月	17	10	4	6	6	3	3	1	1	0
5月	17	10	7	3	4	2	2	3	0	3
6月	13	3	2	1	8	5	3	2	0	2
7月	20	14	6	8	4	3	1	2	1	1
8月	18	13	7	6	2	2	0	3	2	1
9月	15	15	8	7	0	0	0	0	0	0
10月	20	17	9	8	3	3	0	0	0	0
11月	26	20	9	11	6	1	5	1	0	1
12月	23	19	10	9	2	2	0	2	0	2
1月	18	12	5	7	5	2	3	1	0	1
2月	16	15	7	8	1	1	0	0	0	0
3月	17	14	7	7	3	2	1	0	0	0
	220	162	81	81	44	26	18	15	4	11

ＣＴ検査は、肺がん、肝臓がん、膵がん、胆嚢がん、胆管がん、腎がん、婦人科のがん（卵巣がん、子宮がん）、甲状腺がん、縦隔腫瘍などの悪性腫瘍や脳疾患（硬膜下血腫、脳出血、脳梗塞、脳腫瘍）の診断のために有用である。また、令和１年度１月から健診オプション検査として、腹部ＣＴを用いた内臓脂肪測定が開始された（保険適応外）。この内臓脂肪測定は腹囲測定に比べより正確に内臓脂肪量が判定でき、メタボリック症候群の診断上重要な検査である。

全ＣＴ検査数は358例であった（表Ⅱ）。単純ＣＴ検査は外来・健診合わせて317例で、全ＣＴ検査数の経年変化数は令和１年度688例、令和２年度432例、令和３年度467例、令和４年度389例、令和５年度341例、令和６年度396例で減少傾向にある。

令和元年から開始された腹部ＣＴを用いた内臓脂肪測定が単純ＣＴ検査数の増加に寄与している。この数年間は新型コロナウイルス感染症の流行のため、健診・外来受診者数が減少し、ＣＴ検査数の減少に影響していた。単純ＣＴ検査は胸部ＣＴ検査と内臓脂肪測定のための腹部ＣＴ検査が多くを占めた。

一方、造影ＣＴ検査はほとんどが腹部で外来受診者に精密検査として施行され、今年度は38例で令和４年度から令和６年度31例よりはやや多かった。経年推移をみると、令和２～５年度の症例数の低下は新型コロナウイルス感染症による外来受診者数の減少が影響しているためと考えられたが、まだ件数は十分回復していない。

胸部ＣＴ検査はほとんど単純撮影で219例であった。平成27年度から平成29年度にかけては年間300例前後が続き、平成30年度から令和１年度にかけては400例前後と増加した。一方、令和２年度から令和４年度にかけては200～300例で、令和５年度182例と新型コロナウイルス感染症に伴う受診者の減少によりＣＴ検査数も減少した。令和６年度221例、今年度219例とまだ件数は回復していない。

腹部ＣＴ検査は単純ＣＴ検査26例、造影ＣＴ検査38例（計64例）であった。総件数については平成27年度から令和１年度にかけては100例前後が続いていたが、新型コロナウイルス感染症に伴い減少傾向にあり、令和２年度79例、令和３年度67例、令和４年度58例、令和５年度49例、令和６年度47例で、この数年に比べ今年度はやや回復傾向が見られた。

令和１年１月から開始された腹部ＣＴを用いた内臓脂肪測定65例はすべて健診からで、単純ＣＴ検査数の増加に寄与していた。件数については令和３年度147例、令和４年度131例、令和５年度128例、令和６年度117例に比べ減少していた。

頭頸部ＣＴ検査はほとんど単純撮影で令和４年度12例、令和５年度17例、令和６年度11例より少ない10例であった。

表Ⅱ ＣＴ検査人数

(人)

外来						健診		
単純ＣＴ 検査	頭頸部	10	造影ＣＴ 検査	胸部	3	単純ＣＴ 検査	胸部	102
	胸部	114		腹部	38		内臓脂肪	65
	腹部	26		頭頸部	0		計	167
	内臓脂肪	0		計	41		総計	358
	その他	0						
	計	150						

(船津和夫、植田充、茂木章子 記)

D. 病診連携

当三越診療所のある新宿区には、慶応義塾大学病院を始めとして、東京女子医科大学病院、東京医科大学病院の大学病院があり、さらに近隣の大きな病院としては国立国際医療研究センター病院、大久保病院、東京山手メディカルセンター（旧社会保険中央総合病院）、東京新宿メディカルセンター（旧厚生年金病院）がある。東海大学医学部附属東京病院は今年度から閉院となった。いずれの病院も区医師会と病診連携を行っており、その多くが区健診の精密検査の指定病院となっている。急性疾患、慢性疾患のほとんどが当診療所外来で治療を受けているが、入院が必要な手術、医学的に入院加療が必要であると判断される急性腹症・肺炎・心筋梗塞・脳血管障害などの急性疾患については、病診連携ルートを介して近隣の病院あるいは遠方から来院される方には受診者の希望される病院を紹介している。

今年度の紹介患者数は297件で、令和3年度168件、令和4年度188件、令和5年度161件、令和6年度231件に比べ多かった（表12a）。新型コロナウイルス感染症患者数の減少と5類への変更に伴う外来受診者数の増加により、紹介患者数は増加傾向にある。

頻度の高い紹介病院として、例年、慶応義塾大学病院、東京医科大学病院があげられ、それ以外には東京女子医科大学病院、東京山手メディカルセンターなどであった。

甲状腺疾患については、伊藤病院への紹介が多かった。また、皮膚科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、婦人科などについて精査が必要な場合には近隣の専門病院や医院を紹介している。紹介先としては、過半数が大学病院もしくは大学病院と同規模の大病院である（表12a）。

検査については、CT検査は、造影検査を含め当診療所において施行しており、外部の検査センターへの依頼はMRI検査が多い。他に外部への依頼には、心臓の冠動脈の狭窄をみるための心臓MRI検査と心臓造影CT検査あるいは脳波検査がある（表12b）。本年度の外部への検査依頼件数は103件で、令和2年度56件、令和3年度76件、令和4年度88件、令和5年度79件、令和6年度84件に比べ多かった。検査数については、新型コロナウイルス感染症の流行時には外来受診者数減少の影響がみられたが、令和6年から回復傾向にある。

検査結果については、いずれの検査も数日後に、検査データとともに専門医によるコメント付きの結果が当院に郵送され、外来で受診者に検査所見を説明している。

依頼した検査センターとしては、メディカルスキャンニング、大久保病院、水町MRクリニックにMRI検査、心臓画像クリニック飯田橋に心臓の冠動脈をみるためのMRI検査と造影CT検査を依頼した。

以上のごとく、当診療所は以前から大学病院をはじめとして、専門病院と病診連携を行っており、入院精査あるいは治療が必要な受診者に対しては、適切な病院紹介と情報提供を行っている。

表12 紹介先病医院・検査センター 一覧

α 診療・手術目的	件数	β 検査目的	件数
慶応義塾大学病院	39	メディカルスキャンニング	86
東京医科大学病院	30	水町MRクリニック	0
東京女子医科大学病院	5	心臓画像クリニック飯田橋	11
東京山手メディカルセンター	6	大久保病院	6
東京都済生会中央病院	0	計	103
その他大学付属病院	28		
その他病院・クリニック	189		
計	297		

E. 栄養相談

栄養相談は、主治医からの依頼を受け、病気の予防・改善を目的に患者さんの生活背景や食生活の内容を考慮して、実行可能な方法を患者さんと一緒に考え、食事計画を提案している。また、食事療法を継続することの重要性を理解していただくために定期的に栄養食事相談に来ていただき、長年に良好な自己管理が出来る能力を身につけていただけるようにお手伝いをしている。本人とご家族に初回は30～60分、継続は20～40分間行っている。昨年1年間の対象者は37歳～84歳で平均年齢は男性57.8歳、女性59.1歳であった。

お腹いっぱい食べているのに実は栄養素不足といった現代型栄養失調の悩みや、健康情報があふれる中での情報過多による混乱もみられる。

「流行りの糖質制限はよいのか?」「やせられない」「血糖を上げずに太りたい」「筋肉をつけたい」「コレステロール値が下がらない」「薬を減らしたい」「話題の健康食品はいいのか?」「食事をしなくても完全栄養食やサプリメントで問題ない」など様々な問題や悩みに対し食事、運動、生活面からアプローチをしている。

2型糖尿病、肥満、高血圧、脂質異常症などの疾患の多くは、朝食の欠食、夕食時刻が遅い、野菜料理が少ない、食塩の摂りすぎなど食生活に関係が深いことが言われている。これらはちょっとした工夫や食べ方で身体の負担を減らし、健康を維持することが可能である。生活環境や食事習慣をうかがい、年齢、性別、体格、活動量、症状、ライフスタイルに合わせて、オーダーメイドの食事プランを立てるようにしている。普段、食べている食事の栄養バランスが血液検査データや随時尿による推定食塩排泄量などと照らし合わせて、診断し話をさせていただいている。また食事記録による判定も行っている。

忙しくて来られない方や、「面談はちょっと」と思われる方には、食事記録と食事問診票による「書面栄養相談」を受け付けている。

昨年度の糖尿病健康教室は既定の人数が集まらず開催できなかった。

糖尿病健康教室は患者やそのご家族に対して、QOL(生活の質)向上と合併症の予防を目指し、定期的な参加により糖尿病との上手な付き合い方を身につけることができる。最新情報を交えながら、糖尿病専門医からは基礎知識・最新の治療について、管理栄養士からは食事療法の基本・応用について専門用語を避け日常生活に役立つ具体的な事例などでお伝えしている。

(管理栄養士 渡邊潤子 記)

個別栄養相談

日 時：第2、3、4の金曜日の午前中、第1木曜日の午前中

相談員：管理栄養士（糖尿病療養指導士）

対象疾患：糖尿病、肥満症、高血圧症、脂質異常症、痛風、腎疾患、消化器疾患、貧血、低栄養など

糖尿病健康教室

日 時：金曜日12:30～13:40（年2回 随時）

担当：糖尿病専門医、糖尿病療養指導士（管理栄養士）

内 容：これからの糖尿病治療とは？ 食事療法（基礎編・応用編）

表13 個別栄養相談件数

項目	男性	女性	書面 栄養相談	糖尿病	脂質 異常症	高血圧	肥満症	肝疾患	腎疾患	狭心症	低栄養	計
人数	30	48	2	36	20	9	3	8	2	1	1	80

*複数の疾患を合併している場合は主病でカウントをしている

F. 嘱託産業医活動

各常勤医は、働く人の健康を確保するための産業保健に関する専門・技術サービスを提供する認定産業医の資格を取得し、各関連企業と契約をして嘱託産業医活動を行ってきた。

21世紀に入り構造不況が続き、内外にわたる環境や構造の変革が進み、各事業所においても職場組織・職場環境が大きく変化し、就業形態の多様化が進んでいる。令和元年度末にCOVID-19感染流行の波が繰り返し、非常事態宣言下での企業活動、テレワークを推進する状況となり、さらにロシアのウクライナ侵攻・イスラエルのガザ侵攻・トランプ関税そして今年度はアメリカのイラン攻撃と、ますます経済の停滞と昔の世界恐慌を超える不況も懸念されている。令和5年5月になってCOVID-19感染症は5類感染症に変更になったのでテレワークも少なくなるが、疾病を持っている職員やハイリスク該当者などが、そのままテレワークを続けるかどうかという基準も明らかなものはなく、現場では混乱している。職種によってテレワークが定着することもあり、働き方の多様性が見られる。企業内では、パワハラ・派遣労働社員問題や、勤務体制のシフト化による労働時間の変化、そしてテレワークで自宅での作業環境の変化や上司同僚とのコミュニケーション不足などがあり、COVID-19感染や戦争による漠然とした不安感に包まれるなかで、メンタルヘルス不調者が増えている印象であった。

平成27年12月より50人以上の事業所は職員にストレスチェックを行うことが義務化され、各事業所で実施されている。平成31年4月1日から「産業医・産業保健機能」と「長時間労働者に対する面接指導等」が強化されてきている。また高度プロフェッショナル制度対象労働者や研究開発業務従事者など、職種による面接指導を事業所にあったケースバイケースで対応することが求められている。さらに今年度は見送られたが、労働基準法が2027年には改正され、（1）14日以上連続勤務の禁止（2）勤務間インターバル制度の義務化（3）「つながらない権利」ガイドライン策定などが予想され、企業も対応が必要となるであろう。その中で、企業は「健康経営」を目指し、産業医との連携がますます重要となってきている。

今年度は、当健診センターを利用している10の企業・事業所（昨年より1減）に対して、各常勤医（認定産業医）がそれぞれ担当になり、刻々と変化するCOVID-19をはじめとする感染症情報の提供や新型コロナウイルス感染後遺症の対応、健診で得られた結果をもとに生活習慣病管理やメンタルヘルスを含めた健康相談、労働者の健康管理を中心にした職場巡視、安全衛生会議参加による作業環境の管理や労働衛生教育、労働基準局への届け出、そしてストレスチェック後の高ストレス者面接などを、各企業の実態にあわせ工夫して実施している

（山下毅 記）

G. 診療資料

1. 診療患者延べ人数

10,625名（令和7年4月～令和8年3月）

延べ人数内訳

・ 外 来	9,792名
・ 予防接種	740名
・ 精密検査	93名

計 10,625名

2. X線撮影件数

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般撮影	61	102	86	78	78	84	74	79	80	78	57	80	937
胸 部	7	30	17	28	15	22	21	16	11	13	9	15	204
入 社	18	33	31	21	21	20	11	20	18	32	22	20	267
外 科	3	3	1	3	0	1	3	2	3	4	0	6	29
腹 単	5	2	6	2	0	5	6	2	8	0	2	2	40
外来エコー	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
造影撮影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CT	頭頸	2	1	2	1	0	0	1	1	0	2	0	10
	胸部	6	10	10	10	12	10	9	9	11	7	11	114
	腹部	2	1	2	1	2	2	3	2	4	4	1	26
	FAT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純	10	12	14	12	14	12	11	13	14	11	15	150
	E胸部	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	E腹部	7	3	3	0	3	1	4	5	4	5	3	38
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳 房	7	4	4	0	3	2	4	5	4	5	3	0	41
頸動脈エコー	6	12	9	4	11	15	11	13	15	10	3	8	117
外来骨密度	2	5	4	7	14	5	4	6	7	3	2	15	74
消化器	3	1	0	0	0	1	3	1	0	0	1	2	12
食 道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
胃 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
診療合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
胸 部	61	102	86	78	78	84	74	79	80	78	57	82	939
腹部超音波	891	1,025	1,142	882	850	1,073	906	638	390	558	580	879	9,814
頭部超音波	175	188	225	183	159	787	519	364	191	182	194	240	3,407
胃部間接	59	51	57	58	47	31	51	44	35	43	30	63	569
胃部直接	21	39	84	79	52	376	319	198	105	46	65	69	1,453
C T(C)	8	3	11	7	9	9	20	6	3	9	9	8	102
C T(F)	9	8	10	6	8	5	6	1	0	2	5	5	65
骨密度	46	39	58	49	32	28	59	54	27	34	35	64	525
マンモグラフィ	239	271	353	259	261	185	276	193	127	137	145	234	2,680
乳腺エコー	28	32	41	28	24	7	21	16	3	21	24	41	286
定 健	172	173	218	168	119	233	89	45	0	12	15	173	1,417
健診合計	1,648	1,829	2,199	1,719	1,561	2,734	2,266	1,559	881	1,044	1,102	1,776	20,318
合 計	1,709	1,931	2,285	1,797	1,639	2,818	2,340	1,638	961	1,122	1,159	1,858	21,257

3. 臨床検査件数（健診）

検査名		年/月	R7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年 1月	2月	3月	合計
生化学的検査	GOT		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	GPT		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	γ-GTP		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	BUN		86	132	209	176	131	836	337	274	149	95	84	258	2,767
	クレアチニン		1,047	1,137	1,187	961	892	1,232	851	567	306	498	552	973	10,203
	尿酸		1,038	1,137	1,199	977	892	1,242	862	572	303	495	546	972	10,235
	中性脂肪		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	総コレステロール		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	HDL-コレステロール		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	血糖		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	885	602	325	537	579	1,004	10,729
	HbA1c		1,043	1,144	1,211	954	900	1,244	819	548	306	460	511	835	9,975
	インスリン		60	49	64	49	39	36	126	127	62	53	53	76	794
	その他		1,631	1,968	2,482	2,138	1,668	8,342	4,065	2,965	1,536	1,096	1,137	2,901	31,929
	生化学合計		12,388	13,911	15,473	12,381	10,976	21,983	13,255	9,267	4,937	6,456	6,936	13,043	141,006
血液学的検査	CBC		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	891	601	325	537	575	1,003	10,729
	血液像		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液合計		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	891	601	325	537	575	1,003	10,729
血清学的検査	高感度CRP		77	82	126	105	92	768	470	346	164	94	105	108	2,537
	CRP		32	50	57	47	62	22	62	38	15	9	16	28	438
	RF		12	14	19	19	14	9	30	15	5	13	13	24	187
	HBs抗原		57	78	71	86	88	30	57	47	26	14	24	31	609
	HCV抗体		30	37	28	52	42	730	33	29	16	12	20	22	1,051
	腫瘍関連		488	471	497	429	348	561	502	383	219	459	400	650	5,407
	血液型		31	45	47	44	54	19	38	23	8	5	16	19	349
	血清合計		727	777	845	782	700	2,139	1,192	881	453	606	594	882	10,578
一般検査	検尿		1,069	1,192	1,303	1,018	922	1,293	891	603	325	537	579	1,004	10,736
	沈渣		92	65	86	87	53	154	146	96	60	47	38	73	997
	便中Hb		771	836	872	647	615	1,012	666	479	266	466	510	750	7,890
	一般合計		1,932	2,093	2,261	1,752	1,590	2,459	1,703	1,178	651	1,050	1,127	1,827	19,623
生理学的検査	心電図		1,045	1,149	1,262	996	830	1,270	866	571	307	503	553	980	10,332
	肺活量		32	50	56	43	61	21	54	29	14	9	16	28	413
	眼底		144	192	258	209	164	318	591	441	248	180	169	223	3,137
	聴力		1,040	1,134	1,217	964	811	1,241	774	471	241	437	510	930	9,770
	生理合計		2,261	2,525	2,793	2,212	1,866	2,850	2,285	1,512	810	1,129	1,248	2,161	23,652
外注	感染症関連		56	67	64	65	60	61	54	55	21	13	32	37	585
	スメア(HPV)		215	297	342	270	249	185	267	191	93	80	128	211	2,528
	虫卵		7	6	7	6	8	2	12	6	3	3	5	13	78
	喀痰		3	6	5	7	11	7	14	9	4	6	5	14	91
	その他		422	397	554	482	398	341	569	340	206	248	308	501	4,766
	外注合計		703	773	972	830	726	596	916	601	327	350	478	776	8,048
総合計			19,080	21,271	23,647	18,975	16,780	31,320	20,242	14,040	7,503	10,128	10,958	19,692	213,636

4. 臨床検査件数（外来）

検査名		年/月	R7年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8年 1月	2月	3月	合計
生化学的検査	GOT		210	201	225	238	223	223	220	188	237	209	215	219	2,608
	GPT		210	201	225	238	223	223	220	188	237	209	215	219	2,608
	γ-GTP		190	181	205	211	205	195	212	174	216	198	197	201	2,385
	BUN		152	150	179	188	190	178	191	153	192	173	176	174	2,096
	クレアチニン		201	194	222	236	232	224	217	184	237	205	211	213	2,576
	尿酸		201	192	224	240	233	224	222	183	239	205	212	215	2,590
	中性脂肪		205	200	226	242	227	220	223	182	241	205	222	224	2,617
	総コレステロール		205	200	226	242	227	220	223	182	241	205	222	224	2,617
	HDL-コレステロール		205	200	226	242	227	220	223	182	241	205	222	224	2,617
	血糖		210	202	220	238	218	219	213	182	230	195	213	210	2,550
	HbA1c		205	196	214	225	217	218	209	178	226	194	209	208	2,499
	インスリン		3	2	7	4	4	4	2	4	1	0	2	5	38
	Na.K.Cl		151	134	164	181	172	178	164	135	181	154	158	168	1,940
	その他		1,051	945	1,092	1,217	1,160	1,151	1,202	973	1,264	1,110	1,142	1,204	13,511
生化学合計			3,399	3,198	3,655	3,942	3,758	3,697	3,741	3,088	3,983	3,467	3,616	3,708	43,252
血液学的検査	CBC		167	166	181	200	186	176	186	156	191	157	183	165	2,114
	網赤血球像-ST		0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	4
	血液合計		175	179	189	214	195	181	196	167	202	167	201	176	2,242
血清学的検査	高感度CRP		12	12	8	7	9	6	9	9	8	7	7	6	100
	CRP		16	19	19	24	22	23	15	16	17	20	19	16	226
	RF		0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3
	HBs抗原		2	3	5	3	7	4	6	4	5	4	4	3	50
	HCV抗体		3	3	5	3	8	3	5	4	5	4	5	3	51
	梅毒検査		0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
	血液型		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍マーカー		68	78	82	79	84	95	85	49	84	76	77	87	944
血清合計			101	116	119	116	130	133	121	82	120	111	112	116	1,377
一般検査	検尿		75	81	91	81	97	75	90	74	88	81	95	79	1,007
	沈渣		56	61	61	56	68	51	64	60	62	60	77	61	737
	尿アルブミン		5	3	5	6	9	14	6	4	3	3	7	19	84
	妊娠反応		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	便中Hb		3	5	3	3	1	6	2	2	5	2		2	34
	一般合計		139	150	160	146	175	146	162	140	158	146	179	161	1,862
生理学的検査	心電図		65	55	67	73	64	96	61	56	81	61	55	84	818
	負荷心電図		4	3	4	6	2	3	6	9	5	2	3	7	54
	ABI		2	3	3	6	1	3	0	3	6	3	2	2	34
	肺活量		0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3
	眼底		1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
	眼圧		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	聴力		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	生理合計		72	61	74	86	69	102	69	69	93	66	60	93	914
外注	感染症関連		5	8	1	0	5	0	5	0	2	2	0	1	29
	病理関連		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
	喀痰		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌検査		0	0	2	0	0	0	0	2	2	0	0	2	8
	その他		121	100	99	73	130	67	62	78	92	80	84	126	1,112
	外注合計		126	108	102	73	135	67	67	81	97	82	84	130	1,152
総合計			4,012	3,812	4,299	4,577	4,462	4,326	4,356	3,627	4,653	4,039	4,252	4,384	50,799